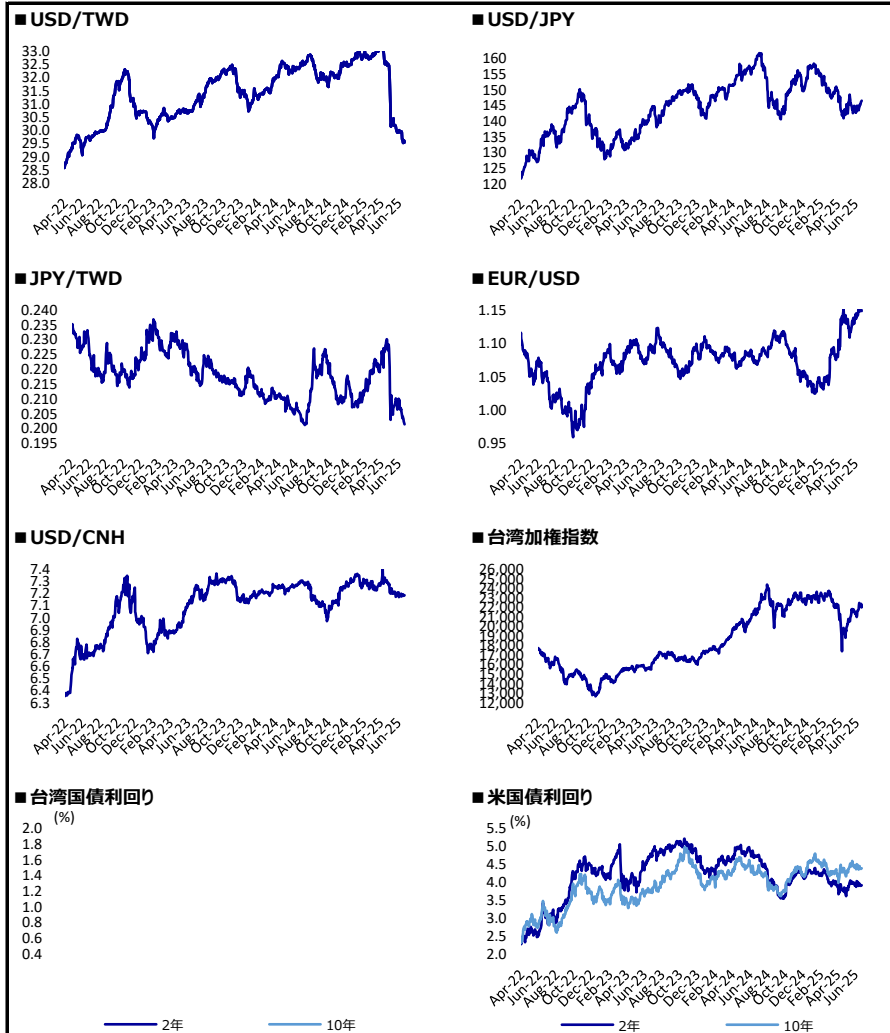


市場動向



先週の市場動向

■USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初6/16は29.650でオープン後、中東情勢の緊迫が材料視されず、アジア通貨の上昇とともに、台湾ドルも買われ、一時29.50を割れた。6/17、中東情勢に対する楽観的な見方が広がり、リスク資産の上昇に伴い台湾ドルも買われ、ドルは一時29.460まで下落。6/18は、海外市場におけるドル高を受け、一時29.60台まで上昇したが、輸出企業のドル売りに抑えられ再び反落。6/19は、中東情勢が再びリスク要因となり、海外市場ではドル買いが優勢となったことに加え、台湾株における外資の売りも強まり、台湾ドルは一時29.630まで売られた。6/20は、海外市場のドル高につられ、一時29.630まで上昇したものの、輸出企業の換金売りがやや優勢となり、ドルは反落。最終的には前週比0.47%ドル安台湾ドル高の29.529で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は83.7億台湾ドル。

■USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初6/16は144.00でオープン後、中東情勢を受けた原油価格の上昇を受け、円売り圧力が強まるなか、144円台後半まで上昇。その後は日米首脳会談を控え、概ね144円台で推移。6/17は、日銀が予想通り金融政策を据え置いたことを受け、マーケットの反応は薄く、引続き144円台後半で推移。欧米時間では、地政学リスクの高まりで原油価格の上昇に伴い145円台前半まで買われた。6/18は、高値でのドル売り圧力が強まり、144円台前半まで緩やかに低下した後、FOMC発表直後は一旦144円台前半まで低下したが、パウエルFRB議長の記者会見ではインフレ懸念を強調したため、ドルは145円台前半までに反発。6/19は、原油価格の高止まりを受け、145円台後半に上昇した後、米国休日のため、材料難の中145円台半ば付近で推移。6/20は、中東情勢の緊迫化を受け原油価格の高止まりで、貿易収支の悪化が懸念され、ドル買い優勢の展開となり、最終的には前週比1.35%ドル高円安の146.05で先週の取引を終了。

■USD/TWD 予想レンジ：29.500-29.900
今週のドル/台湾ドルはレンジ推移を予想。市場の関心が中東情勢や米国の関税問題に向く中で、引き続き方向感に欠く動きとなりそう。

■USD/JPY 予想レンジ：142.00-148.00
今週のドル/円は中東情勢のニュースで上下に振れる神経質な展開が続く見通し。市場の関心が中東情勢や米国の関税問題に向く中で、従来は相場を動かす原動力となり得る指標や金融政策を巡る要人発言などに反応しづらいとの声も聞かれ、引き続き方向感に欠く動きとなりそう。

今週の予定

6/23 (MON)	米5月中古住宅販売件数
6/24 (TUE)	台湾5月鉱工業生産、NATO首脳会議、米6月CB消費者信頼感指数
6/25 (WED)	米5月新築住宅販売件数
6/26 (THU)	米5月耐久財受注
6/27 (FRI)	6月東京都都区消費者物価指数、米5月個人所得・個人支出・デフレーター

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。